公益財団法人８０２０推進財団

令和７年度　歯科保健活動助成事業報告書［抄録］

１．事業名：

人間ドックにおける歯周病唾液検査導入の取り組みについて

―医科歯科連携による歯周病健診の取り組み―

２．申請者名：一社）西宮市歯科医師会会長　中坪　信也

３．実施組織：一社）西宮市歯科医師会

一社）西宮市医師会

４．事業の概要：

歯周病は歯周組織の破壊にとどまらず、糖尿病、動脈硬化、脳血管疾患、認知症等との関連が指摘されており、全身の健康維持の観点からも早期発見・早期介入が重要である。そこで本会では、西宮市医師会と連携し、人間ドック受診者を対象として、唾液を用いた歯周病スクリーニング検査を導入し、医科健診から歯科受診へつなぐ新たな地域連携モデルの構築を進めた。歯科専門職が常駐せずとも実施可能な方式であり、生涯を通じた歯科健診体制の先行的取り組みとして、市民の口腔健康の保持増進を通じ全身健康へ寄与することを目的とした。

５．事業の内容

医科歯科連携の事業（糖尿病・がん・認知症など）

令和５年１月、西宮市内協力歯科医療機関受診者１０８名（２１歳～９１歳）を対象に、唾液中ヘモグロビン（Hb）量および乳酸脱水素酵素（LD）量を測定し、歯周病スクリーニング精度の検証を行った（兵庫県医師会倫理審査委員会承認番号 R4-004）。さらに、歯周状況チェック票（8020 推進財団作成）の問診項目に重みづけを行い、唾液検査との組み合わせにより感度・特異度を高めた判定基準を確立した。これを基に、西宮市医師会診療所人間ドックにおいて一般市民向けオプション健診として継続実施した。

令和７年度は、特定健診等への展開準備を進めるとともに、事業成果を第 36 回近畿・中国・四国口腔衛生学会にて発表し、地域歯科保健部門最優秀賞を受賞した。また、医師会との協議を重ね、次年度以降の特定健診併用歯周病健診実施体制の整備を進めた。

６．実施後の評価（今後の課題）：

本事業により、既存健診制度を活用した医科歯科連携型歯周病健診モデルの有効性が示された。特に、人間ドック受診者への歯科受診勧奨や、全身疾患予防の観点から歯周病対策を位置づけた点は大きな成果である。一方、要受診判定後の歯科受診率向上、紹介書類の持参率、医科歯科間の情報共有など運用面での課題も明らかとなった。今後は、受診者への啓発資材整備、ICT を活用した連携体制の強化、協力医療機関の拡充を進めるとともに、西宮市国民健康保険加入者の特定健診への正式導入を目指し、市行政・医師会・歯科医師会が一体となって事業の定着と発展を図っていく。